

城下町探訪 15

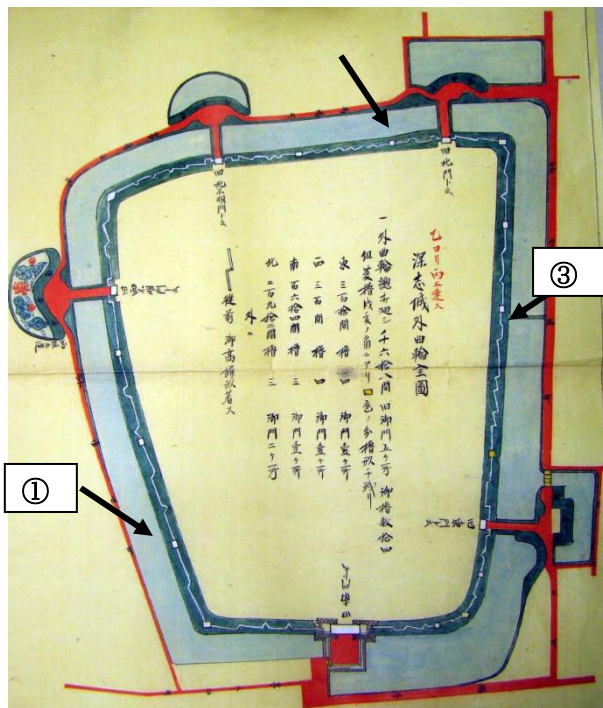
2009/7/9

ざんぞんどのりい

総堀残存土塁3カ所

松本城を囲む総堀土塁の内に残されている土塁は3カ所あります。土塁は松本の町の近代化にともない削り取られて宅地化されたり、堀の埋め立てに使われ姿を消していきました。

総堀土塁の総延長は1066間（およそ1940m）ありました。その土塁の上に土塀が設けられて城を守っていたのです。



明治9年 総堀土塁

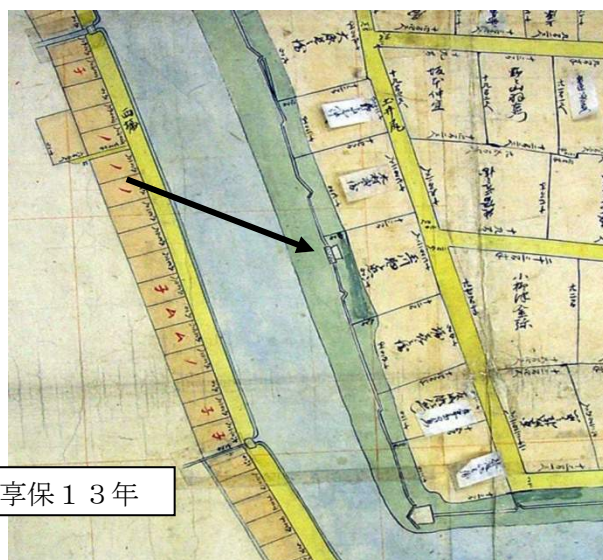
①土井尻土塁

平成18年4月、残存土井尻土塁の所有者が現状を変更したいとの意向を示されたので急遽発掘が行われ、その後、国史跡として保存されることになりました。

土井尻土塁はこの土地の所有者が土塁を囲むように住宅を建て中庭の築山としてこれを利用していたため保存が計られました。周囲から隔絶された形でいたため残されました。

享保13年秋改信州松本城下絵図を見ると残存する土塁は200石の軍師玉川助之丞の屋敷内となっており、平櫓も認められます。

大正8年~10年かけて松本市は、西総堀を埋め立てて市営住宅を建てます



享保13年



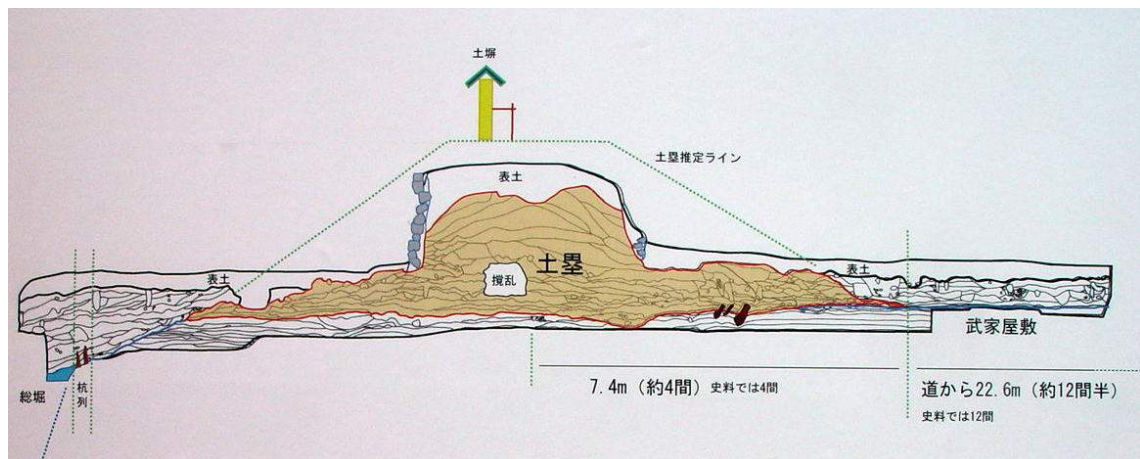
昭和3年

がその時、南^{みなみ}中小路から直に西堀通りに通ずる道が新しく造られたのです。この時土塁は削り取られ西堀の埋め土になったと推測されますが、昭和3年の地図で家の建っていない部分が北に伸びているのがみられ土塁の残骸は残されていたと推定されます。



発掘の結果、土居敷といわれる基部の幅が17・68m、高さが推定3・64m位と判明しました。この上に2・5～2・7m位の土塀が建っていたと推定されます。

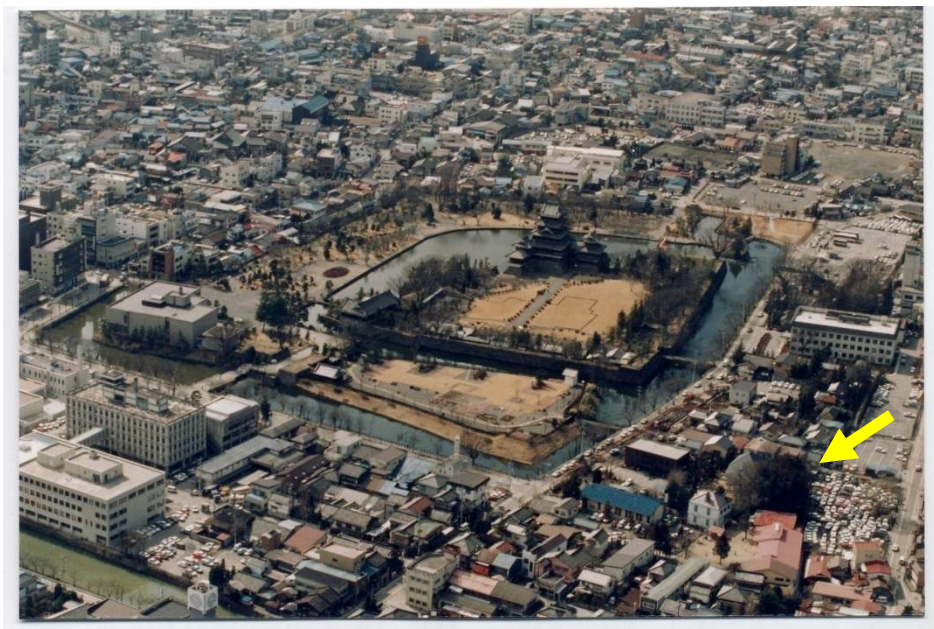
平成19年～20年には土塁の東側に当たる武家屋敷面が発掘されました。池や建物の礎石が発見されています。また土塁と西堀の境界には東総堀で発掘された尖った杭列が、ここでも発見されています。来年度中には、史跡公園として土塁が復元される計画が進行しており、土塁の上に登りその高さを実感することが出来るようになります。



②残存北総堀土塁

北馬場の松本市役所職員駐車場の南に土塁が残されています。平成18年幼稚園の体育室建設にともない土塁断面をみる事が出来ました。

〔残存北総堀土塁〕



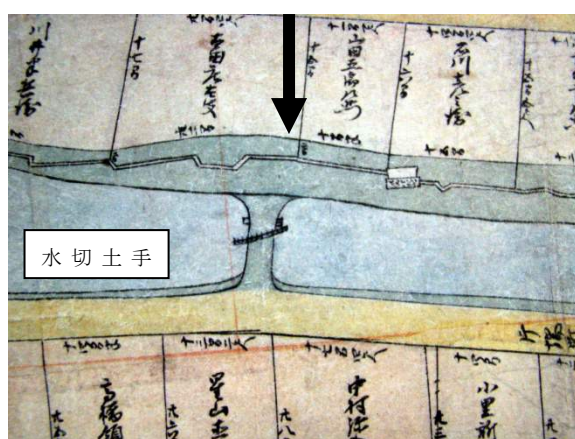
ここは個人の所有地で土塁の上に住宅を建てられ（現在は使っておられないとのこと）、そのために残されました。土塁の上には社が祀られています。本格的に学術的な調査はされていません。駐車城側から見ると丘の上に木が繁っているという感じです。この残存土塁の西側から裁判所方面の土塁は削り取られて宅地化されています。北総堀は昭和7～8

年にかけて埋めたてられ、市営プールが作られました。

③ 残存東総堀土塁（市役所東庁舎南側）

市役所東庁舎南側の駐車場から東側を向くとて庭園の築山が見られます。これが東総堀土塁の西側です。

（残存東総堀土塁）



この土塁は享保十三年秋改信州松本城下絵図では太田庄太夫（250石）の屋敷の東側にあったものです。廃藩後所有者の庭の築山として使用され残されたものです。土塁東側は破壊されています。水切り土手がその東側にあります。

松本城総堀の土塁は以上見てきたように3カ所が残存するのみです。③の東総堀

残存土塁は市有地となっており、全面発掘調査を行い史跡として保存をはかる計画があります。

総堀土塁内を郭内といいます。土塁は郭内と郭外を分ける構築物として存在したのです。郭内に自由に庶民が入れるようになったのは明治3年7月からです。